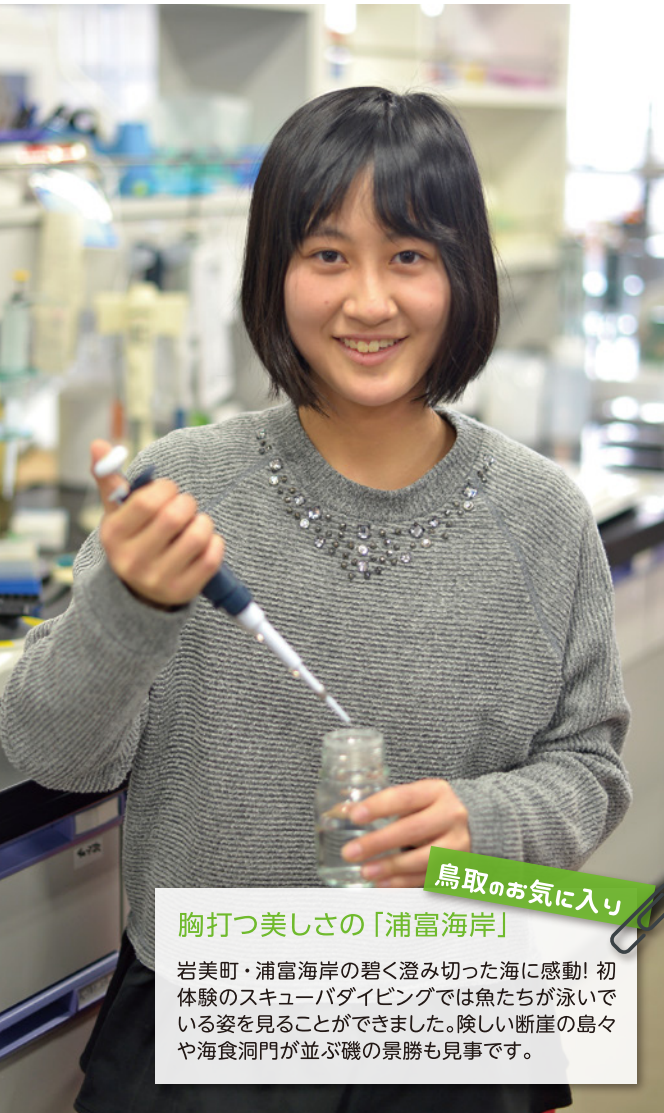


農学部 生命環境農学科

募集人員(予定)
10人

4年 | 太田 早紀子 さん (おあた さきこ) [私立大阪女学院高等学校 出身]



鳥取のお気に入り

胸打つ美しさの「浦富海岸」

岩美町・浦富海岸の碧く澄み切った海に感動! 初体験のスキューバダイビングでは魚たちが泳いでいる姿を見ることができました。険しい断崖の島々や海食洞門が並ぶ磯の景勝も見事です。

■ きのご研究への意欲に燃えてAOでトライ

私は今、鳥大農学部で菌類きのこの研究をしています。きのこのこの出会いは、高校の授業で長野の森を訪れたとき。かわいらしい見かけもさることながら、調べていくうちに創薬にも役立つと知り、興味が湧いたんです。元々バイオテクノロジーに関心があり、農学系で進学先を探していたら、菌類きのこの研究の先進である鳥大を発見。瞬間に「ここだ!」と思いました。

高2の秋にはAO受験を決意。もしAOがダメでも推薦や一般入試で鳥大に挑戦するつもりだったので、センター試験の勉強も並行してやりました。大阪で開催された進学相談会に参加し鳥大のブースでAOの詳細を尋ねたり、通っていた予備校で情報収集。オープンキャンパスにも出かけ、モチベーションを高めました。

願書には、海外語学研修のこと、京都大や大阪大で特別講義を受けた経験などを記入。羅列だけに終わらず「その経験で何を学んだのか」を書くように意識しました。1次面接は待合室が静かすぎて緊張MAX! でも、「これとこれだけは絶対に話そう」というポイントを頭に思い浮かべ、自然体を心がけて面接に臨みました。

■ 様々な活動・経験がAO受験の糧になる

私にとってAO入試のヤマは、2次のグループディスカッションでした。実は同級生にAOや推薦入試を受験する人がほとんどおらず、全然練習ができなかったんです。でも、本番ではとにかく「自分の意見はしっかり述べる」「人の話をよく聞く」「自分の意見を主張しすぎない」の3点を意識。話が思わぬ方向へ発展しそうになったので、議論の軌道修正も心がけました。今になって思えば、高校生のとき様々な活動に積極的に取り組んでいたことで、自然と応用力が身に付いていたのかもしれない。「鳥大に入りたい」という強い気持ちも大切だと思います。

AO・推薦 | 合格者が受ける「入学前教育」では2泊3日の合宿研修があるんですが、いち早く大学の友達ができてうれしかったですね。入学後に学力で遅れを取らないようeラーニングもしっかりこなしました。将来は大学院へ進み、きのこの類の遺伝子研究に携わってさらに専門性を高めていきたいと考えています。

平成29年度AO入試 第2次選考 <選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成29年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。
平成30年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

全体を通して
求める力

生命環境農学科では、自ら意欲的に学び、学んだことを実践に応用できることを重視しています。高校時代に履修できる、あらゆる科目を積極的に学び、知力、体力、コミュニケーション力、気力、実践力の基礎を養ってください。

課題論文

「あなたはこれまでに、どのような困難に遭遇し、それをどのように乗り越えてきましたか。また、その経験をどのように自分の将来に活かそうと考えていますか。」という課題について、これまでの経験と入学後の自分を想定して、具体的に記述するものでした(1,000字程度)。第1次選考合格者は、事前に課題論文のテーマを与えられ、第2次選考当日に課題論文を提出するものでした。

グループ
ディスカッション

1グループ6名に分かれ、「人間が使える「水」資源には限りがあり、その分布は不均等です。一方で、日本は輸入品を通して多くのバーチャルウォーターを輸入し、利用・消費しています。このような事実を踏まえ、今後日本はどうすべきか、グループで議論し、結論を導きだしてください。」というテーマについて、グループディスカッションを行いました(90分)。なお、グループディスカッションの役割分担(司会を含む)を受験者が決めて、進行を行いました。

個人面接

3名の面接官による、1人あたり25分の面接を行いました。また、基礎的な英語についても試問しました。